

2013年1月31日 全5頁

## Indicators Update

# 12月鉱工業生産

市場予想を下回るものの、下げ止まりの兆し

経済調査部  
エコノミスト 橋本政彦

### [要約]

- 2012年12月の生産指数は、前月比+2.5%と2ヶ月ぶりの上昇となったものの、市場コンセンサス（同+4.1%）を下回った。増加率が想定外に低かったことはややネガティブだが、広い業種で生産が増加しており、先行きに関しても増産を見込んでいることから、生産全体としては下げ止まりの兆しがみられている。出荷指数は前月比+4.4%と上昇し、在庫指数が同▲1.1%と低下したことから、在庫率指数は同▲0.6%と3ヶ月連続の低下（改善）となった。
- 製造工業生産予測調査によると、2013年1月の生産計画は前月比+2.6%、2月は同+2.3%となっており、生産は3ヶ月連続の増加を見込んでいる。1月に関しては、12月に大きく増加した一般機械工業、電気機械工業が減少に転じる見込みであるものの、輸送機械工業、化学工業、電子部品・デバイス工業が全体を押し上げる見込み。一方、2月は電子部品・デバイス工業のみ減産を見込んでおり、生産は全般的に改善に向かう計画となっている。
- 生産と連動性の高い輸出数量は、海外経済の回復を背景に下げ止まりの動きが見られている。中国、ASEAN等のアジアを中心に、海外経済は増勢を強めていく見込みであることに加え、足下の円安も追い風となり、輸出向け出荷は2012年10-12月期を底に増加に向かうとみられることから、輸出の増加を起点に生産は増加傾向となる公算である。

### 鉱工業生産の概況(季節調整済み前月比、%)

	2012年							
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鉱工業生産	▲3.4	0.4	▲1.0	▲1.6	▲4.1	1.6	▲1.4	2.5
コンセンサス								4.1
DIR予想								5.5
生産者出荷	▲1.3	▲0.9	▲3.1	0.2	▲4.3	▲0.1	▲0.8	4.4
生産者在庫	▲0.7	▲1.2	2.9	▲1.6	▲0.9	▲0.1	▲1.2	▲1.1
生産者在庫率	▲3.7	4.2	3.7	▲2.3	4.2	▲2.1	▲0.3	▲0.6

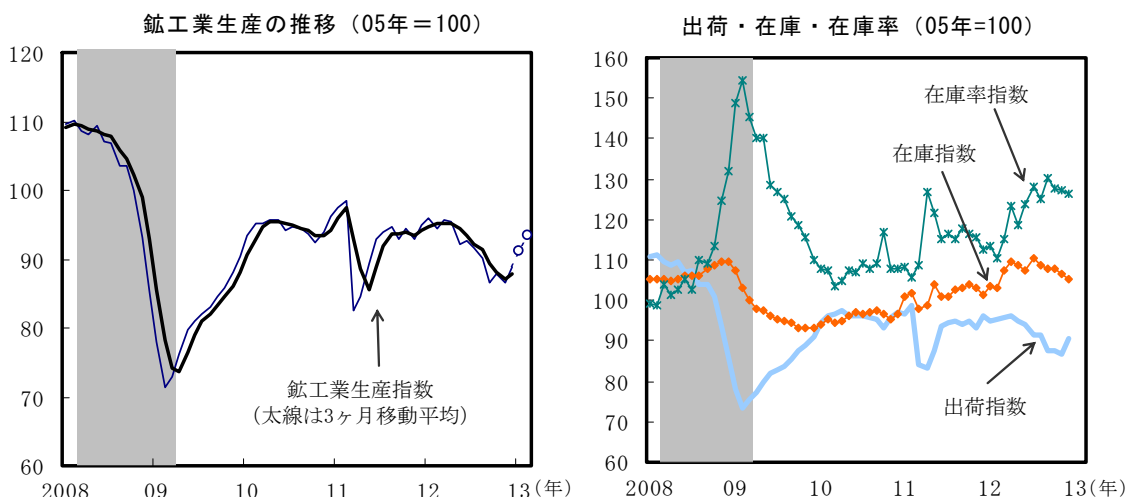
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

## 生産指数は2ヶ月ぶりの上昇

2012年12月の生産指数は、前月比+2.5%と2ヶ月ぶりの上昇となったものの、市場コンセンサス（同+4.1%）を下回った。増加率が想定外に低かったことはややネガティブだが、広い業種で生産が増加しており、先行きに関しても増産を見込んでいることから、生産全体としては下げ止まりの兆しがみられている。出荷指数は前月比+4.4%と上昇し、在庫指数が同▲1.1%と低下したこと、在庫率指数は同▲0.6%と3ヶ月連続の低下（改善）となった。

### 生産・出荷・在庫の推移（季節調整値）



(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シャドローは景気後退期。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 幅広い業種で生産が増加、先行きも全般的に改善見込み

12月の生産を業種別に見ると、全16業種中、12業種が前月から上昇しており、加工業種、素材業種問わず、幅広い業種で生産が増加する形となった。特にプラス寄与が大きかったのは、輸送機械工業、一般機械工業である。

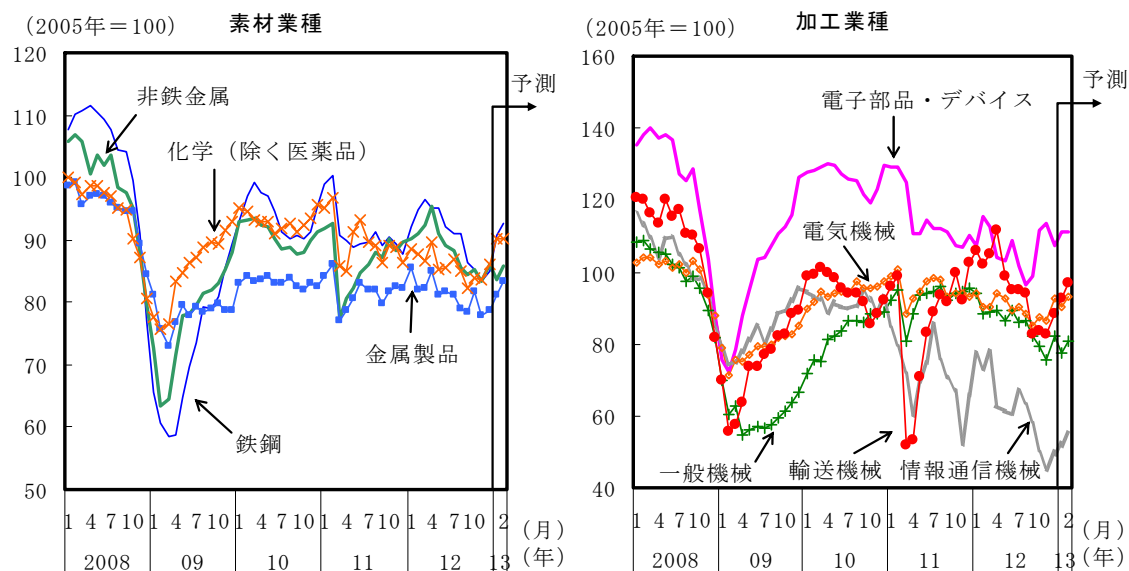
輸送機械工業は前月比+6.9%と2ヶ月ぶりの上昇となった。国内新車販売がエコカー補助金終了後に一旦は落ち込んだものの、速やかに回復していることを受け、生産も下げ止まった格好。前年比では▲16.2%と低水準の生産が続いているが、方向感としては改善に向かっている。一般機械工業は前月比+8.7%と4ヶ月ぶりの上昇となった。これまで悪化傾向が続いてきた「半導体製造装置」が前月比+89.0%と大きく増加したことが押し上げに寄与した。

一方、前月調査時点では強気の計画を立てていた電子部品・デバイス工業の生産が、前月比▲5.3%と計画に反して減少したこと、全体の伸び率は前月調査時点での計画に比べて下振れすることとなった。

製造工業生産予測調査によると、2013年1月の生産計画は前月比+2.6%、2月は同+2.3%となっており、生産は3ヶ月連続の増加を見込んでいる。1月に関しては、12月に大きく増加した一般機械工業、電気機械工業が減少に転じる見込みであるものの、輸送機械工業、化学工

業、電子部品・デバイス工業が全体を押し上げる見込み。一方、2月は電子部品・デバイス工業のみ減産を見込んでおり、生産は全般的に改善に向かう計画となっている。

### 主要業種の生産推移



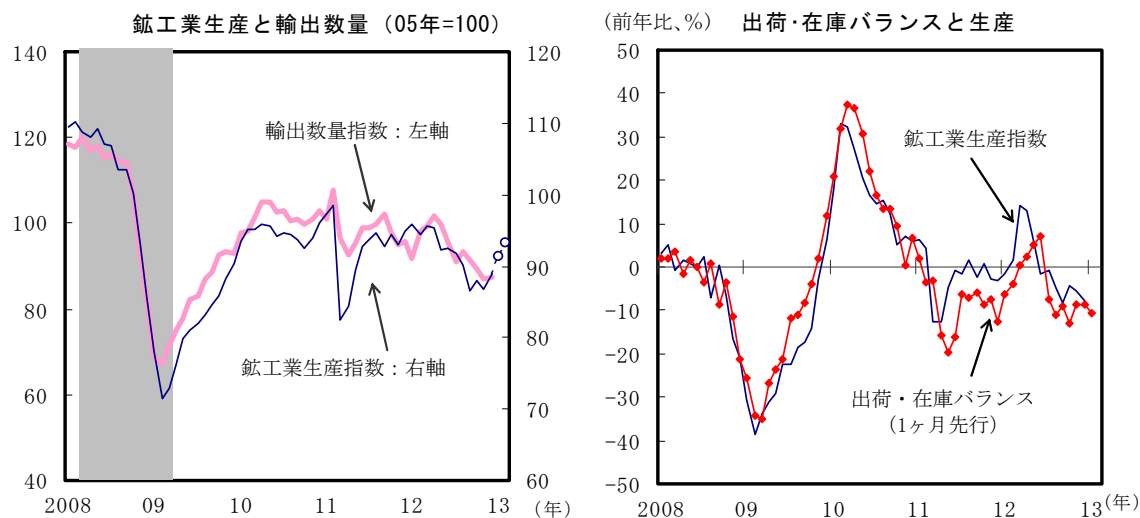
(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

### 輸出を起点に生産は増加傾向へ

生産と連動性の高い輸出数量は、海外経済の回復を背景に下げ止まりの動きが見られている。中国、ASEAN等のアジアを中心に、海外経済は増勢を強めていく見込みであることに加え、足下の円安も追い風となり、輸出向け出荷は2012年10-12月期を底に増加に向かうとみられることから、輸出の増加を起点に生産は増加傾向となる公算である。

### 輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



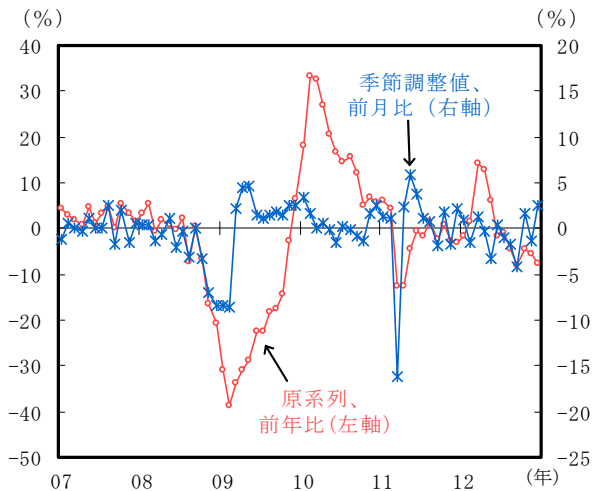
(注1) 生産指数の直近2ヶ月の値は、製造工業予測指数による。

(注2) シヤドーは景気後退期。

(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

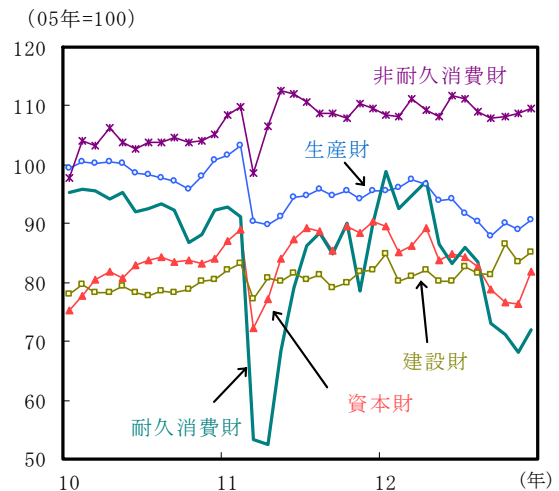
概況

鉱工業生産指数の変化率

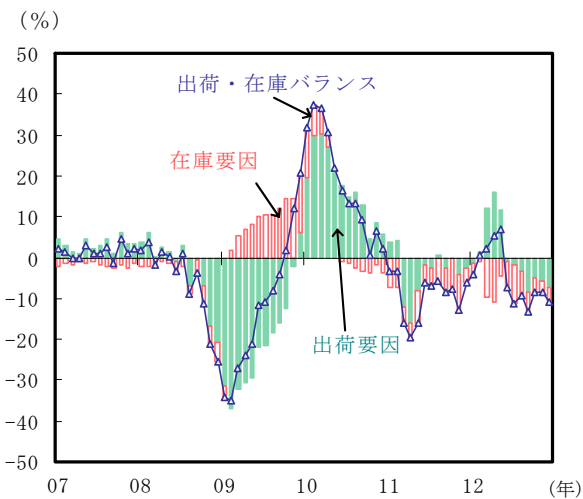


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の生産指数(季節調整値)

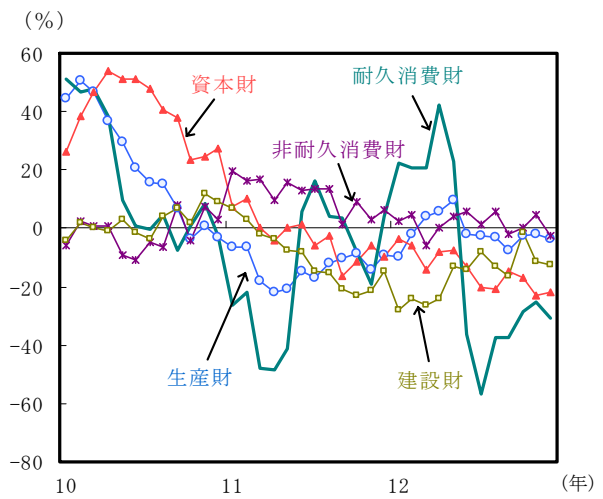


鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス

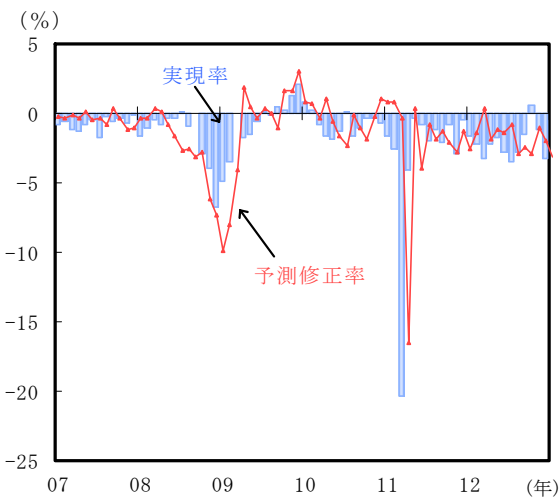


(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

財別の出荷・在庫バランス

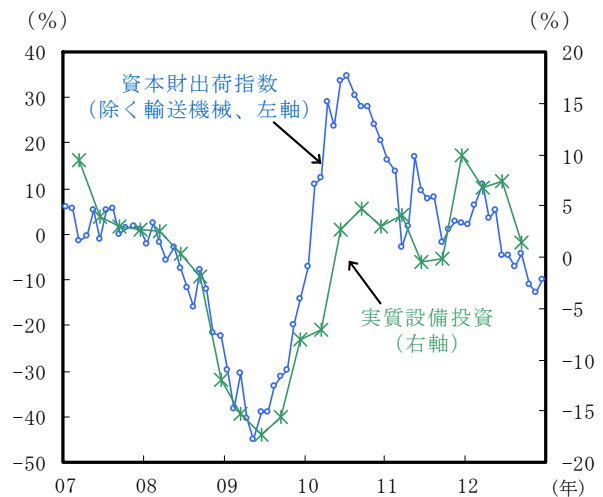


予測修正率と実現率



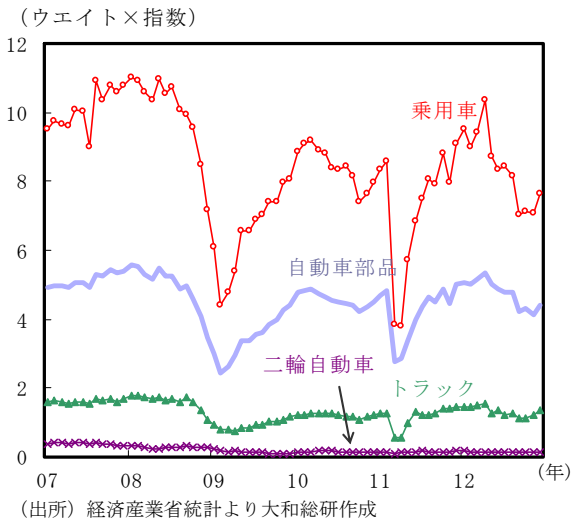
(出所) 経済産業省、内閣府統計より大和総研作成

資本財出荷[除く輸送機械]と設備投資(前年比)

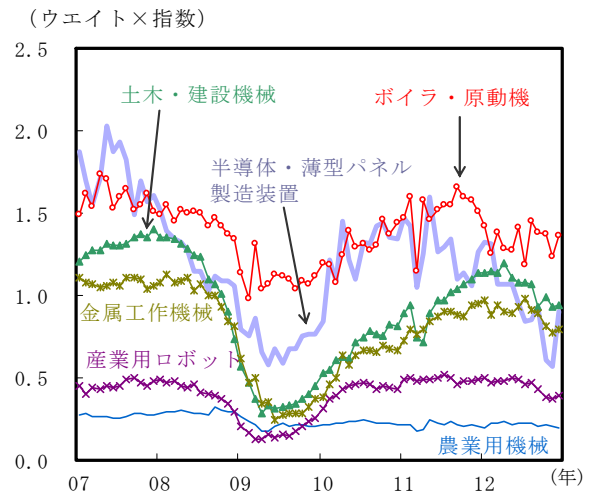


**主要産業の生産動向(季節調整値)**

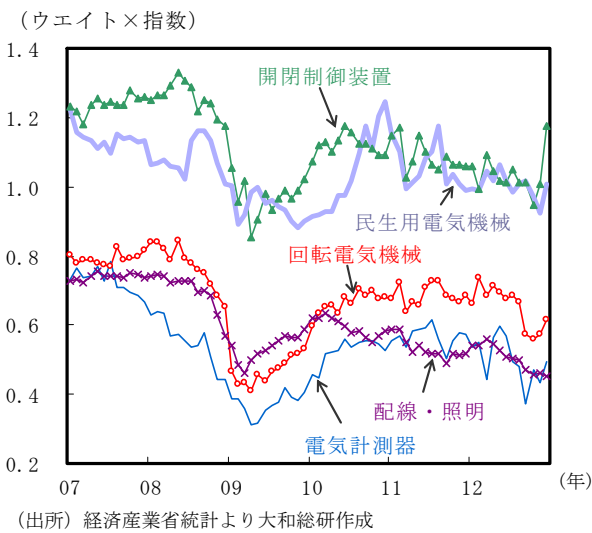
**輸送機械**



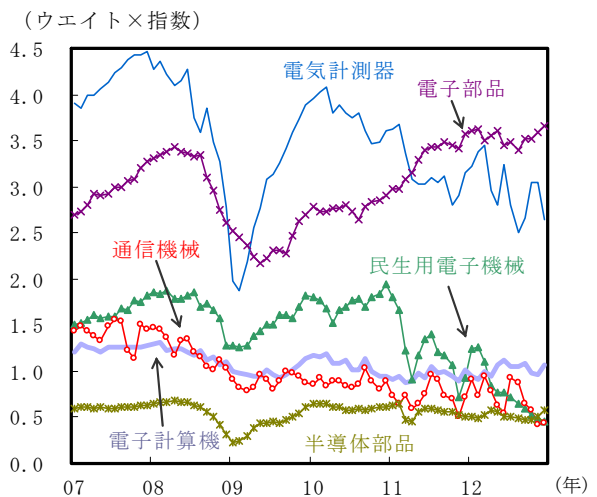
**一般機械**



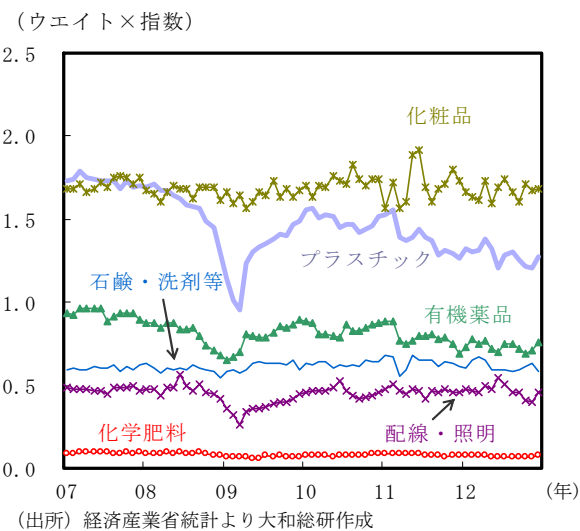
**電気機械**



**電子部品・デバイス・情報通信**



**化学**



**鉄鋼・非鉄・金属**

